

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

(2024年4月～2024年9月)

2024年11月18日

代表取締役社長 木村 有仁

創立70周年～みなさまに感謝

- 2024年9月27日、当社は創立70周年を迎えました。
- 現在まで、事業成長を支えて頂いたすべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。



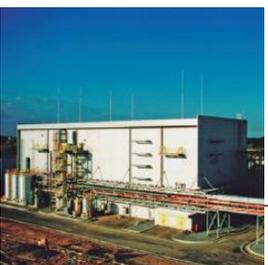
70 東洋合成

TOYO GOSEI 70th ANNIVERSARY

～70周年記念ロゴ～



70周年記念感謝祭



1. 2025年3月期 上期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望

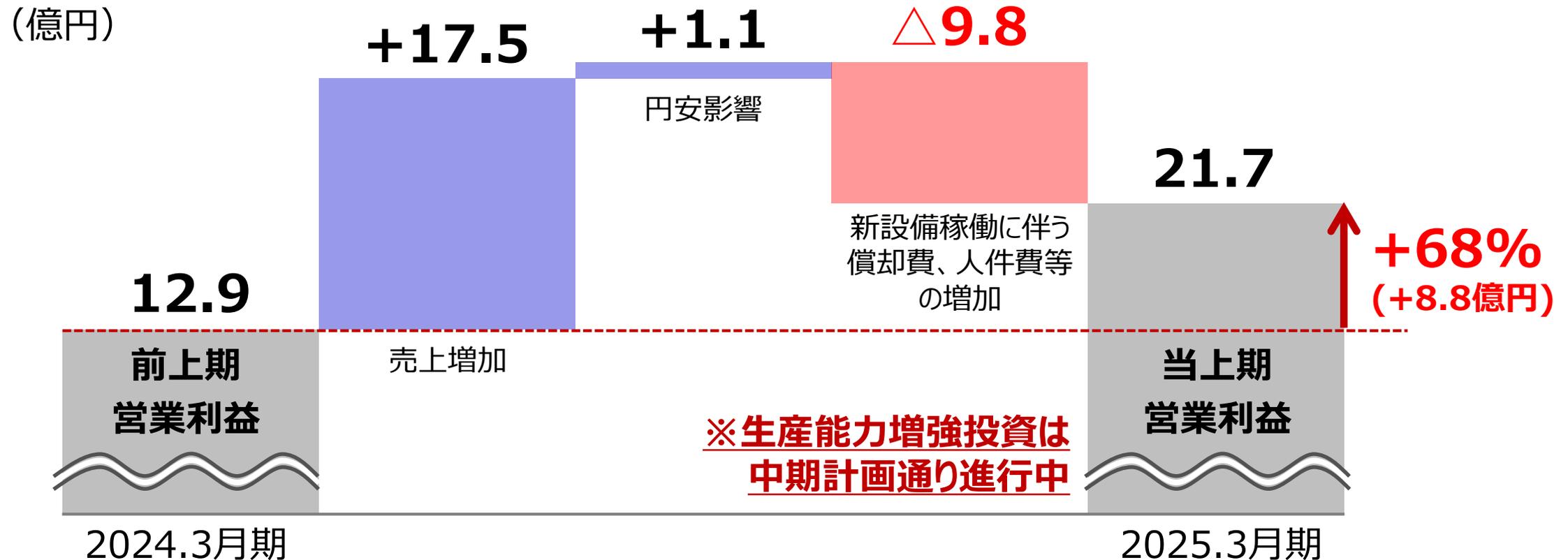
2025年3月期 上期 業績概要

- 売上高は、AI関連投資を背景に、先端半導体向け材料などの売上が拡大し、187.4億円、前年同期比+25%。
- 営業利益は、売上増加により21.7億円、同+68%の大幅増益。
- 業績予想比では、営業利益+6%、純利益+3%の超過達成。

	2024.3月期	2025.3月期	前年同期比		2025.3月期	業績予想比	
	(億円) 上期実績	上期実績	増減額	増減率	上期業績予想	増減額	増減率
売上高	150.5	187.4	+36.8	+25%	187.0	+0.4	+0%
営業利益	12.9	21.7	+8.8	+68%	20.5	+1.2	+6%
経常利益	13.5	20.6	+7.0	+52%	20.0	+0.6	+3%
純利益	9.1	13.9	+4.7	+52%	13.5	+0.4	+3%
1株当たり純利益	115円	175円					
1株当たり中間配当金	20円	20円					
期中平均為替レート	¥ 140/\$	¥ 153/\$					

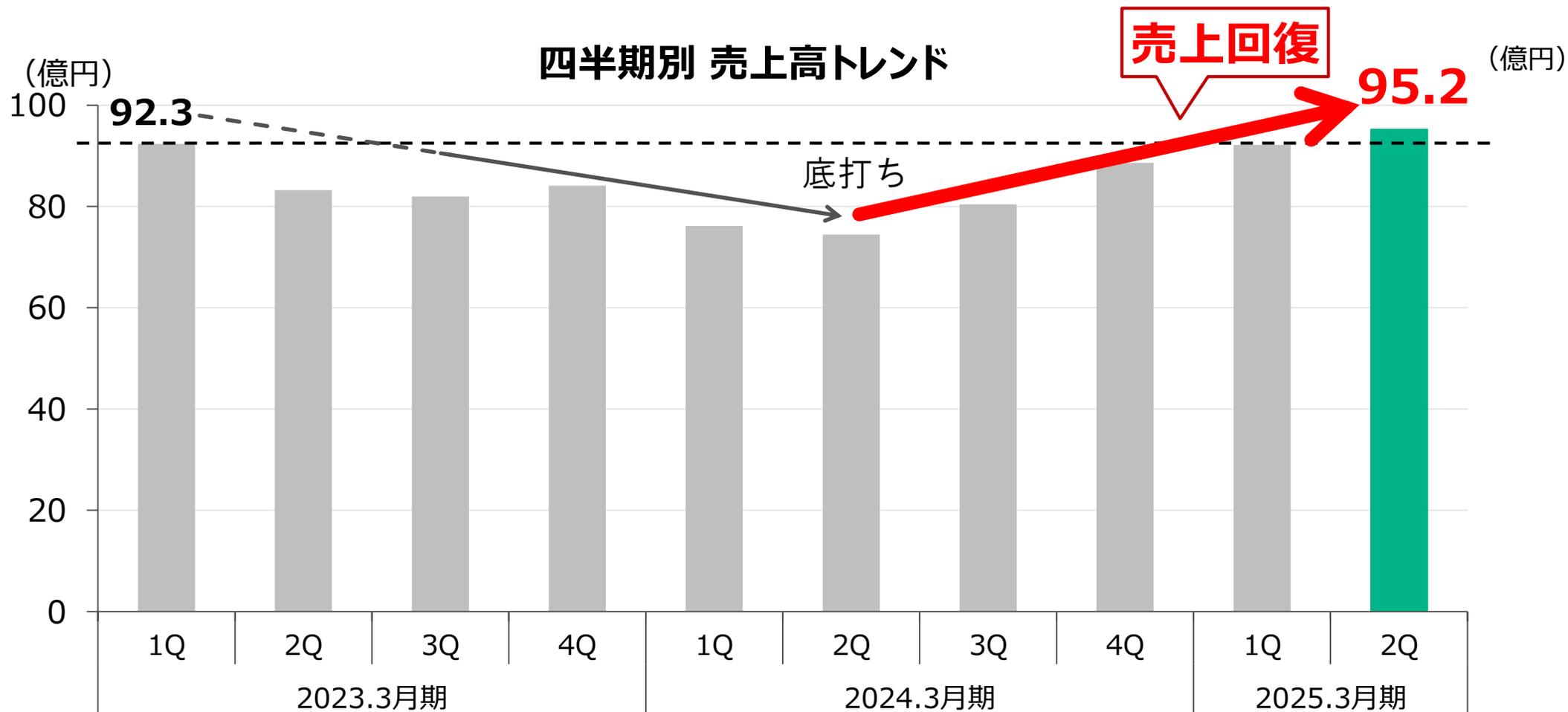
2025年3月期 上期 営業利益 増減要因

- 売上増加により生産能力増強の費用増を吸収し、円安の寄与もあり、営業利益は、前年同期比+68%の21.7億円。



四半期別 売上高トレンド

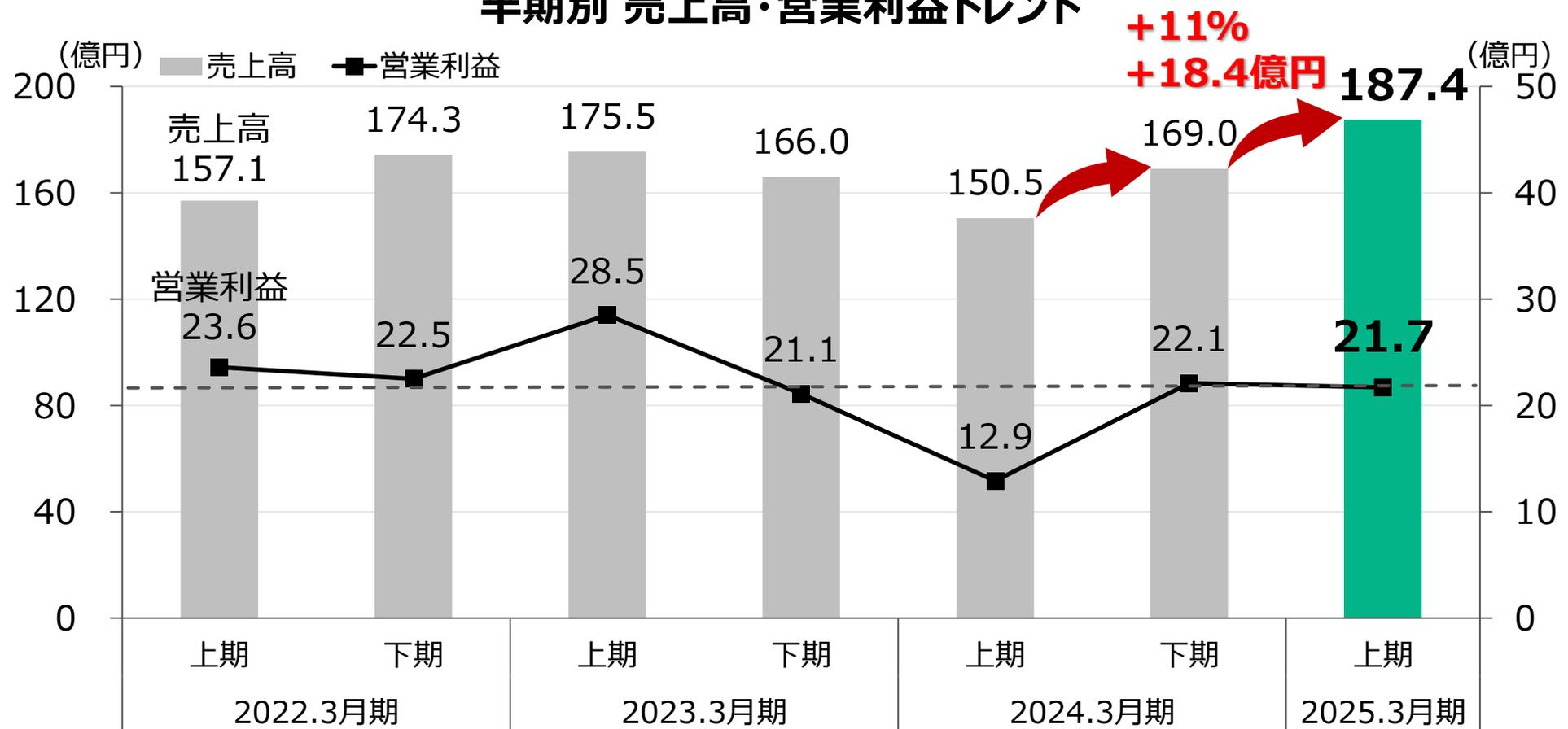
- 先端半導体向け材料の売上拡大などにより、**四半期売上高は過去最高。**



2025年3月期 上期 売上高・営業利益実績

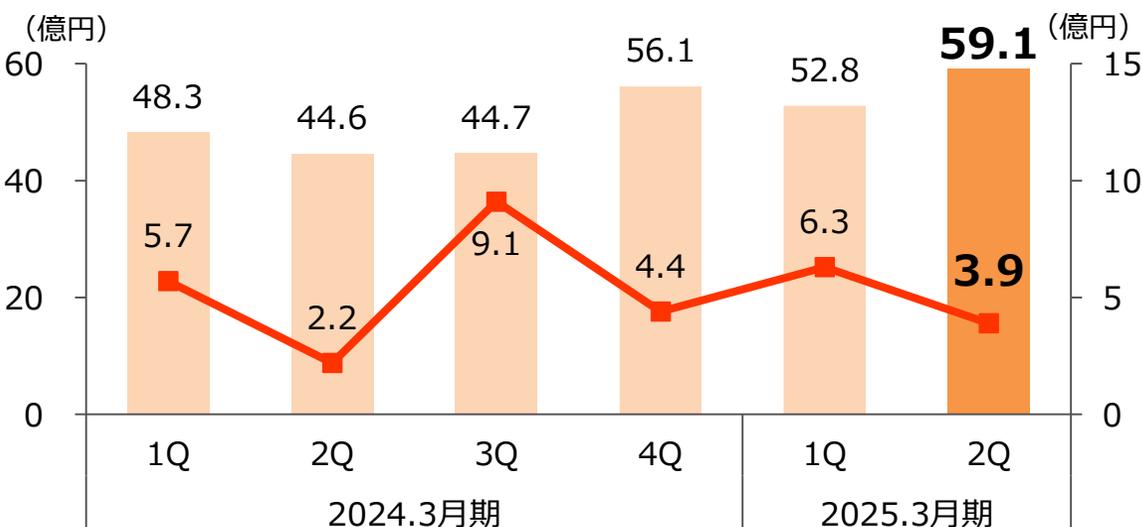
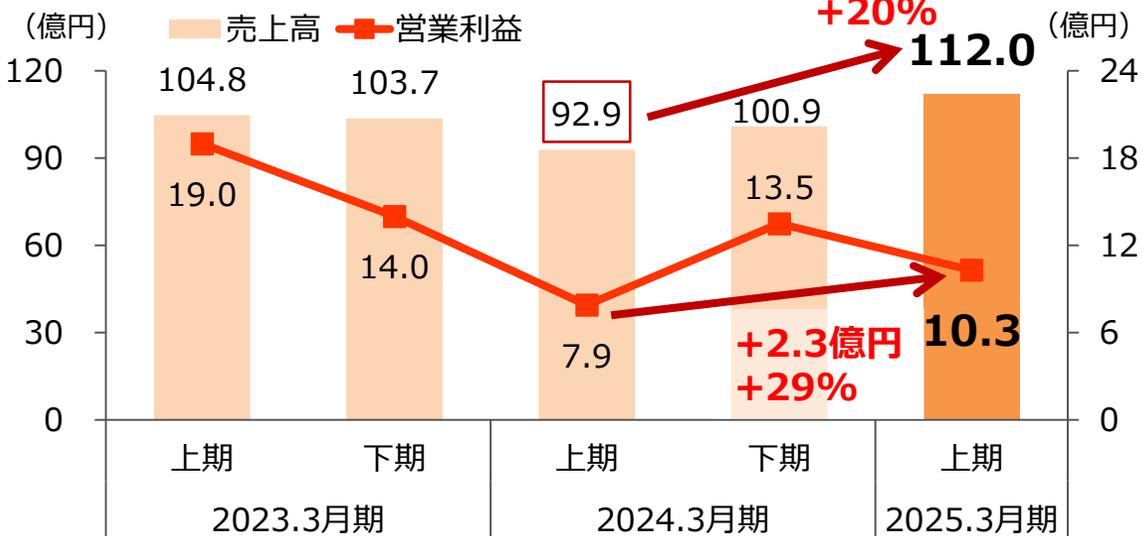
- 前年下期から、売上高・利益ともに回復。売上高は前下期から11%の増加。
- 販売拡大により生産能力増強によるコスト増を吸収し、利益を確保。

半期別 売上高・営業利益トレンド



感光性材料セグメント

売上高・営業利益



売上高: 112.0億円

(前年同期比 +19.0億円、+20%)

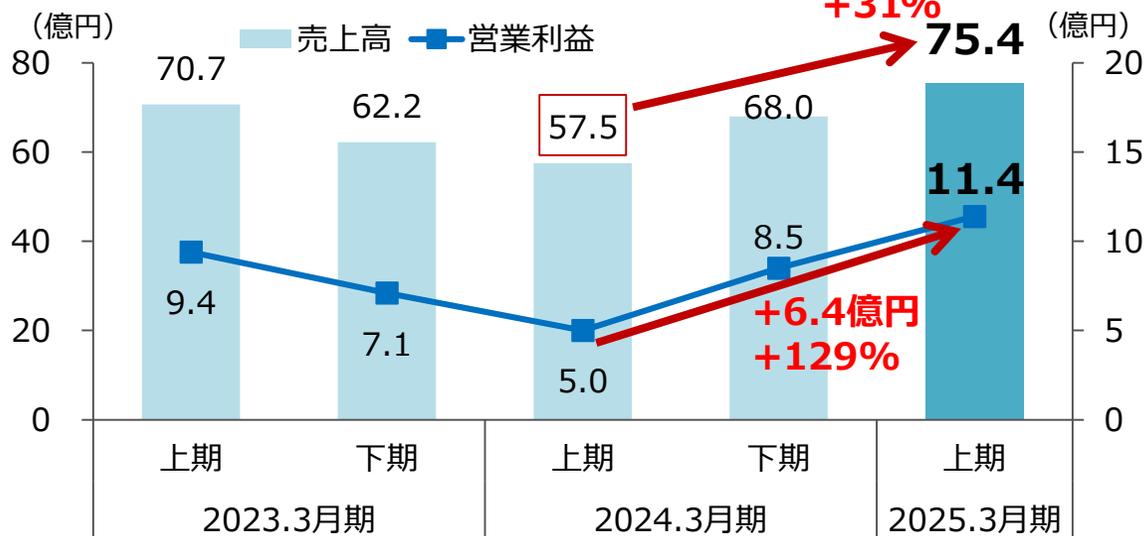
- 半期、四半期ともに過去最高。
- 半導体向け材料は、AI関連投資を背景に先端分野の需要が増加し、売上拡大。
- ディ스플레이向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルに保たれ、当社への需要も堅調。

営業利益: 10.3億円

(同 +2.3億円、+29%)

- 売上増加により生産能力増強に伴う費用増を吸収し、利益を確保。
- 前下期比では新設備稼働の費用増などにより減益。

売上高・営業利益 +17.8億円 +31%



売上高: 75.4億円

(前年同期比 +17.8億円、+31%)

- 高純度溶剤は、半導体向けの需要増、電子部品向けの回復により売上増加。
- 香料材料関連は、需要回復が継続し、増収。
- タンクターミナル事業は、荷動きは低調だが、輸入品の増加からタンク契約率は高水準で推移。



営業利益: 11.4億円

(同 +6.4億円、2.3倍)

- 一過性の販売構成の変化もあり、大幅増益。
- 売上高、営業利益ともに半期では過去最高。

2025年3月期 上期 損益計算書

- 売上高は、187.4億円(前年同期比+25%)。
- 売上総利益は、売上拡大により費用増を吸収し、+12.8億円、売上総利益率も2.4pt良化の24.5%。
- 経常利益は、前期比1.5倍の20.6億円。

(億円)	2024.3月期 上期	2025.3月期 上期	増減額	増減率
売上高	150.5	187.4	+36.8	+25%
売上原価	117.2	141.3	+24.0	+21%
売上総利益	33.2	46.0	+12.8	+39%
販売管理費	20.2	24.3	+4.0	+20%
営業利益	12.9	21.7	+8.8	+68%
営業外収益	1.1	1.4	+0.2	+24%
営業外費用	0.6	2.6	+2.0	+336%
経常利益	13.5	20.6	+7.0	+52%
特別損益	△ 0.1	△ 0.5	△ 0.3	
税引前当期純利益	13.3	20.0	+6.7	+50%
法人税等合計	4.1	6.1	+2.0	+48%
当期純利益	9.1	13.9	+4.7	+52%

売上総利益率
22.1%→24.5%
2.4pt良化

為替、金利影響

経常利益率 11.0%

2025年3月期 上期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF:39.2億円 利益増、運転資金改善。
- 投資CF:55.0億円 生産能力増強投資を継続。
- 財務CF:16.5億円 設備投資資金を確保。

	(億円) 2024.3月期 上期	2025.3月期 上期	増減額
営業活動によるCF	13.3	39.2	+25.8
税引前当期純利益	13.3	20.0	+6.7
減価償却費	14.4	15.7	+1.3
売上債権の増減額 (+は減少)	4.4	6.0	+1.5
棚卸資産の増減額 (+は減少)	4.8	△ 7.1	△ 12.0
仕入債務の増減額 (+は増加)	△ 19.8	16.1	+35.9
その他	△ 3.9	△ 11.6	△ 7.6
投資活動によるCF	△ 37.9	△ 55.0	△ 17.0
フリー・キャッシュフロー	△ 24.6	△ 15.7	+8.8
財務活動によるCF	29.1	16.5	△ 12.6
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0.9	△ 0.6	+0.2
現金及び現金同等物の増減	3.6	0.1	△ 3.4
現金及び現金同等物の期末残高	36.1	36.6	+0.4

**運転資金改善
+25.4億円**

2025年3月期 上期 貸借対照表

- 売上拡大により運転資金は15億円の改善。(=売上債権+棚卸資産-仕入債務)
- 生産能力増強の設備投資継続により、有形固定資産は+43.6億円、借入金は+19.1億円。
- 純利益の増加により、株主資本は+12.3億円。自己資本比率は35.5%。

(億円)	2024.3月末	2024.9月末	増減額	(億円)	2024.3月末	2024.9月末	増減額
流動資産	226.8	234.6	+7.8	負債	376.9	417.9	+41.0
現金預金	36.4	36.6	+0.1	仕入債務	40.0	56.2	+16.1
売上債権	72.2	66.1	△ 6.0	借入金	220.0	239.2	+19.1
棚卸資産	103.3	110.5	+7.1	その他	116.7	122.4	+5.7
その他	14.7	21.2	+6.5				
固定資産	368.3	413.7	+45.4	純資産	218.2	230.4	+12.1
有形固定資産	338.6	382.2	+43.6	株主資本	216.3	228.6	+12.3
無形固定資産	15.7	17.1	+1.3	評価・換算差額等	1.9	1.7	△ 0.1
投資・その他	13.9	14.4	+0.5				
資産合計	595.1	648.4	+53.2	負債・純資産合計	595.1	648.4	+53.2

1. 2025年3月期 上期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望

2025年3月期 通期 業績予想値と進捗状況

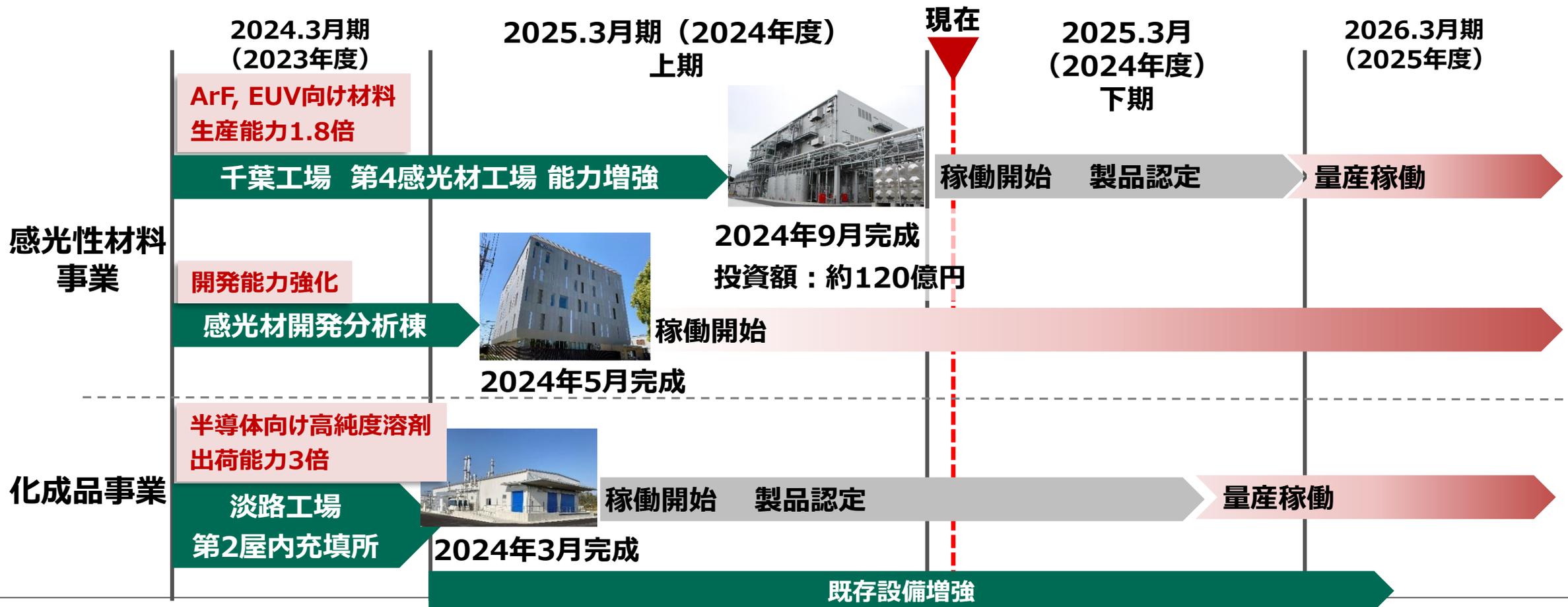
- 通期業績予想値に対する上期進捗率は、売上高49%、営業利益61%、経常利益59%、純利益は56%。
- 各利益ともに業績予想値に対し、50%以上の進捗。

(億円)	2025.3月期 業績予想値	2025.3月期 上期実績値	進捗率
売上高	382.0	187.4	49%
営業利益	36.0	21.7	61%
経常利益	35.0	20.6	59%
純利益	25.0	13.9	56%
為替レート (USD)	¥148/\$	¥153/\$	

大型設備投資の進捗

※期初計画から変更なし

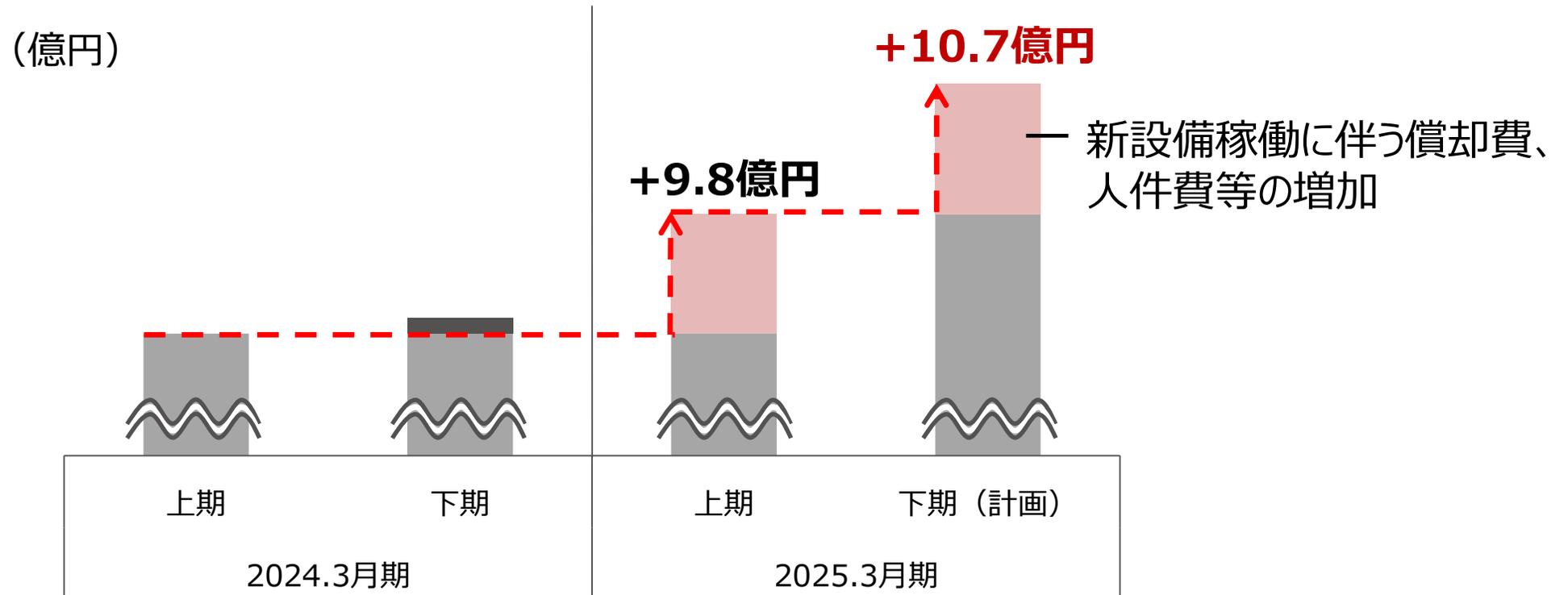
- 2024年9月に千葉工場 第4感光材工場 ArF, EUV向け材料の生産ラインが完成し、Beyond500(現中計)生産能力増強 大型設備は上期にすべて完成。
- 下期からは、ArF, EUV向け材料の生産能力を1.8倍にする新設備が稼働開始。



2025年3月期 生産能力増強による固定費増加

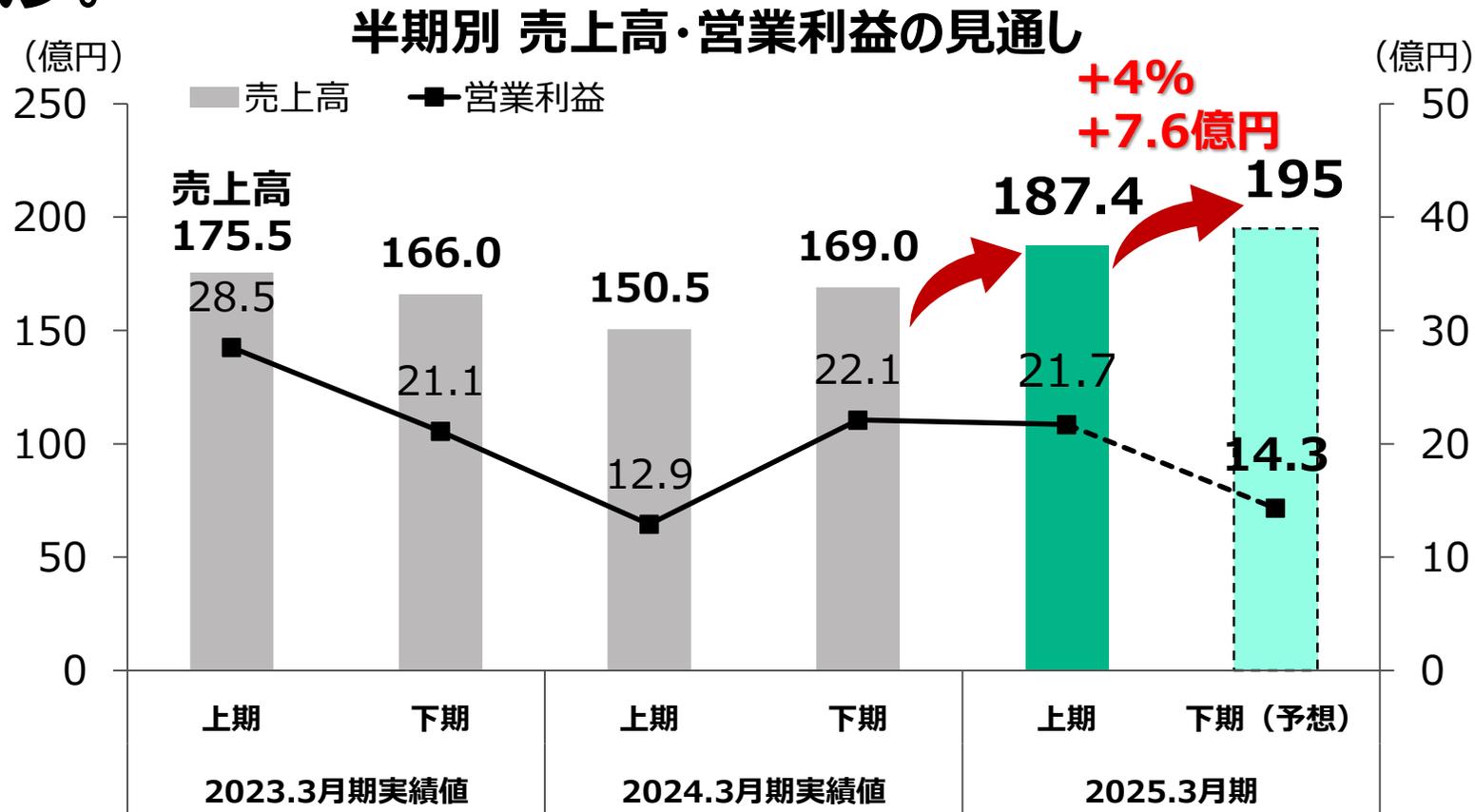
- 下期は新設備の稼働開始に伴う償却費や人件費の増加により、上期に比べ10.7億円の固定費増加を見込む。

生産能力増強による固定費増加

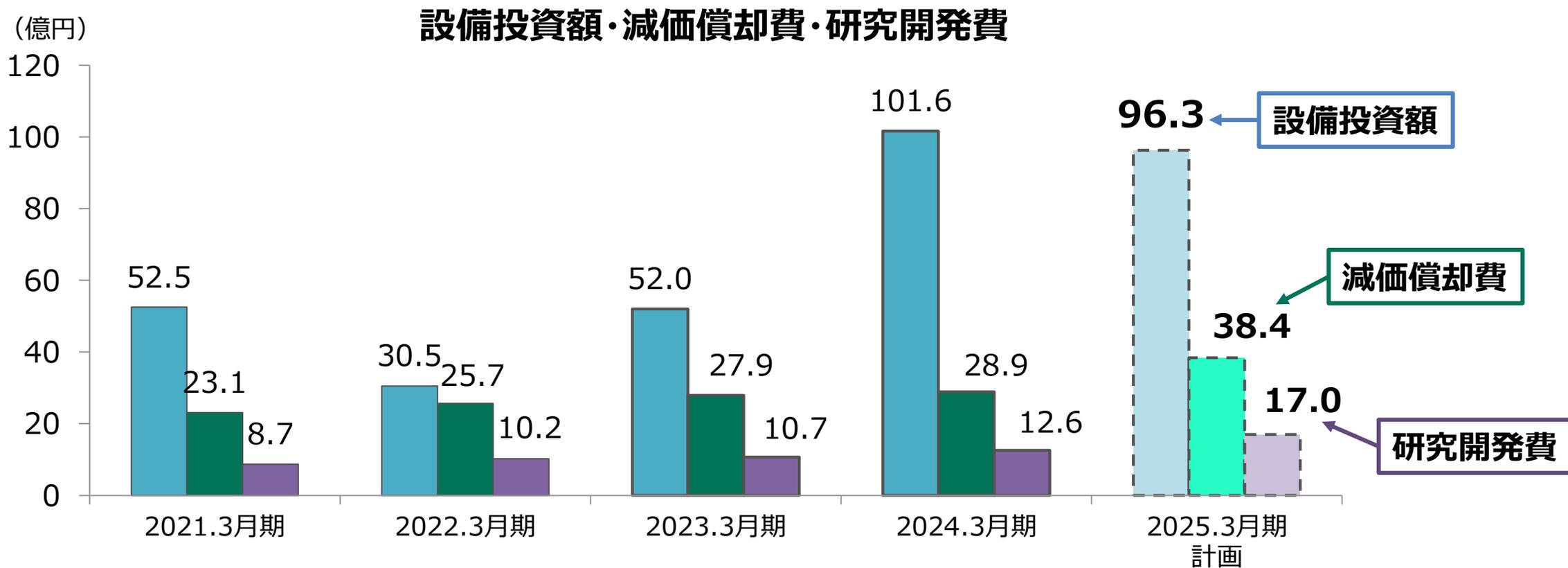


2025年3月期 下期 売上高・営業利益見通し

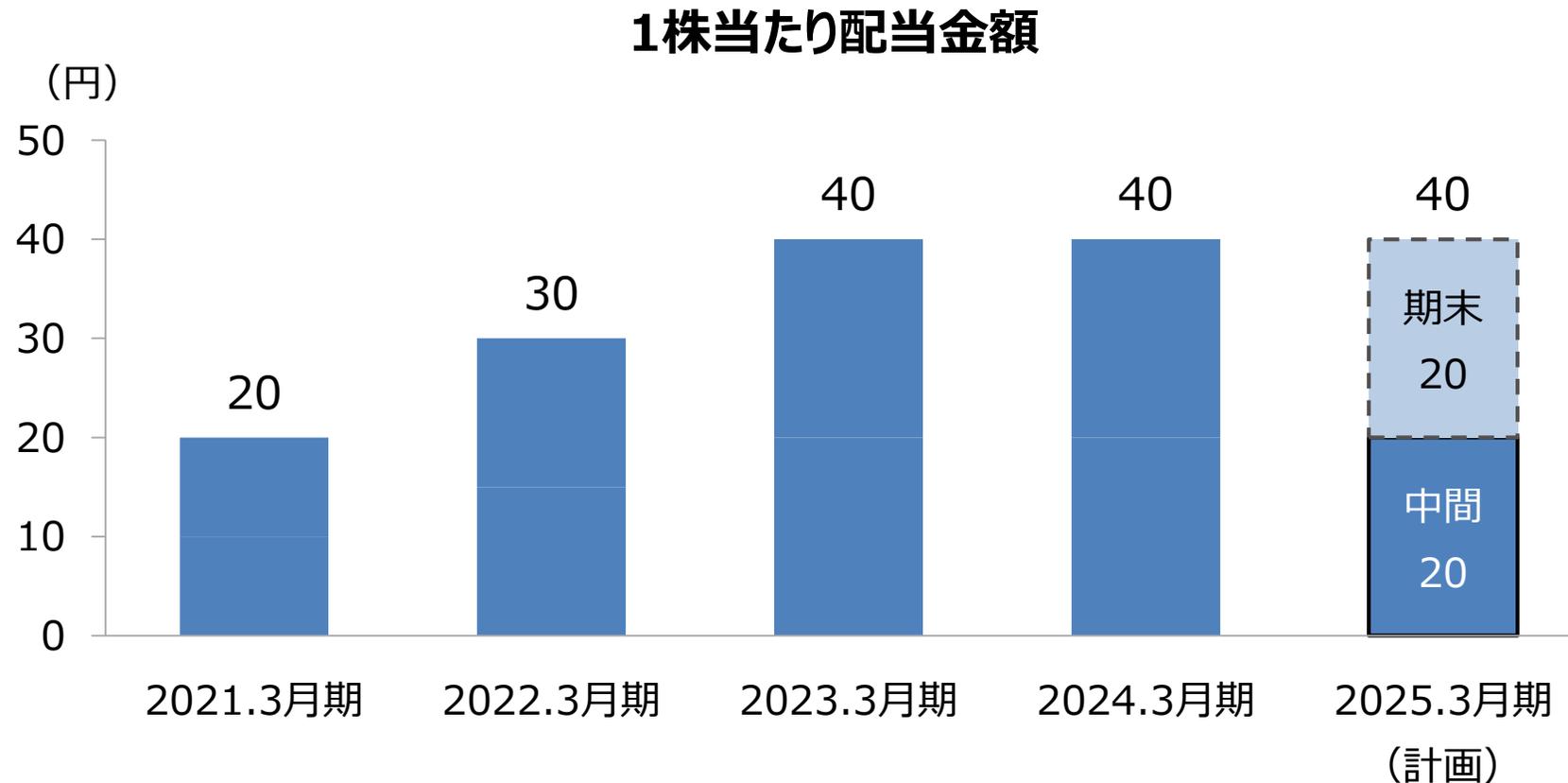
- 下期も先端向け半導体材料を中心に、売上拡大は継続。
- 下期は新規大型設備稼働に伴い、人員や償却などの費用が先行して増加するため、一時的に利益減少。



- 設備投資の建設コストの上昇により、年間設備投資額を92.4億円から96.3億円に修正。
- 減価償却費は償却開始時期により、40.2億円から38.4億円に修正。



- 安定配当を基本とし、2025.3月期は、年間配当40円(中間20円)を継続。



1. 2025年3月期 上期 決算概要

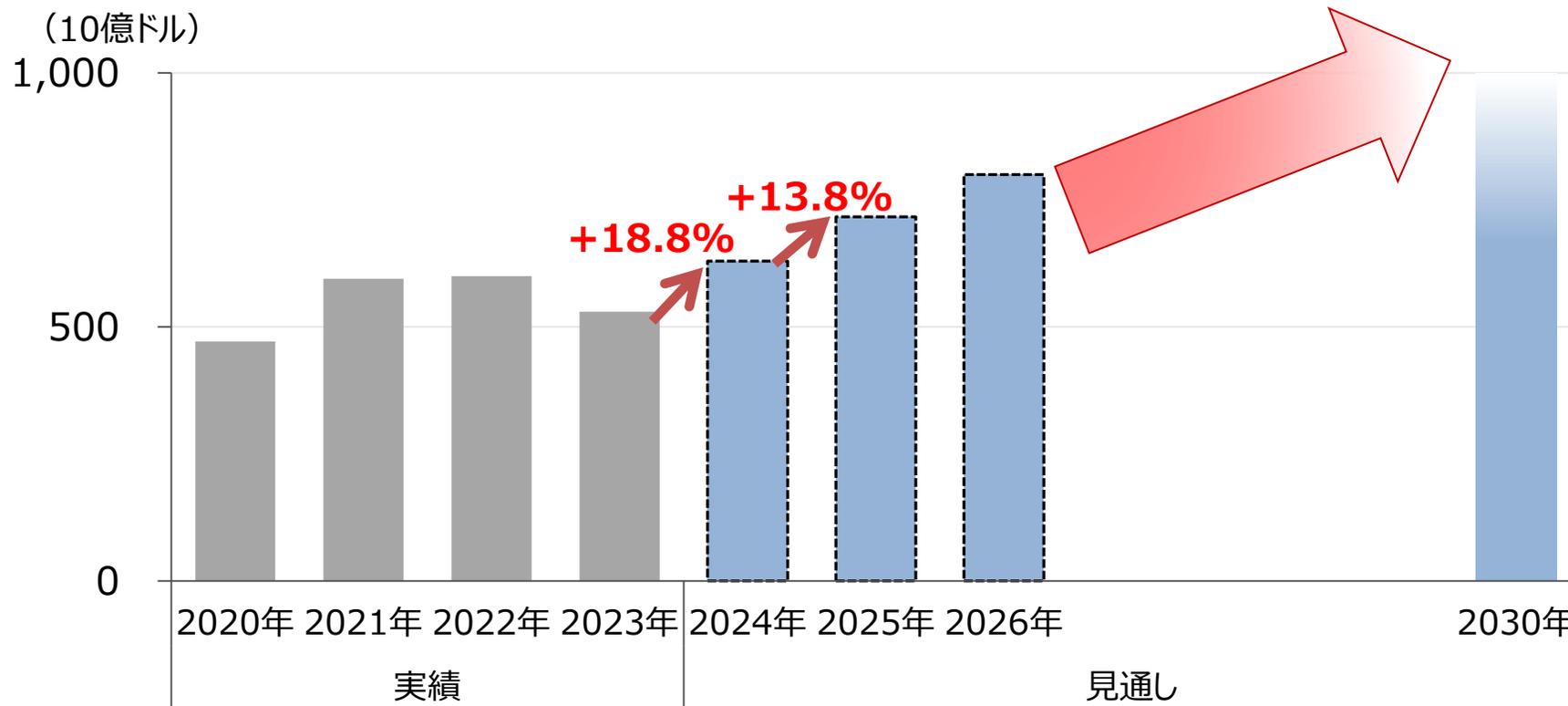
2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望

今後の半導体市場の見通し

- 2024年の世界半導体市場は18.8%成長、2025年も13.8%成長と市場拡大継続の予測。
- 2026年以降も成長を続け、2030年までに1兆ドルに成長する見通し。

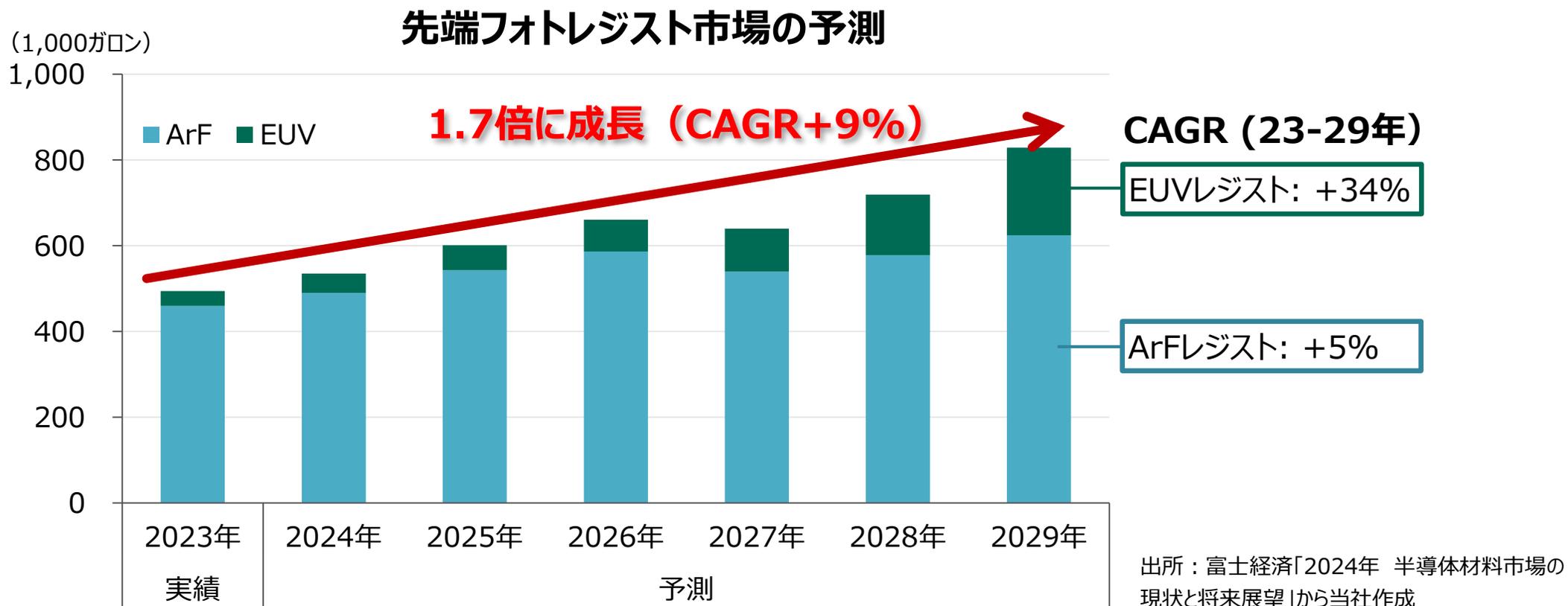
半導体市場の長期予測



出所：Techcet、Gartner資料から当社作成

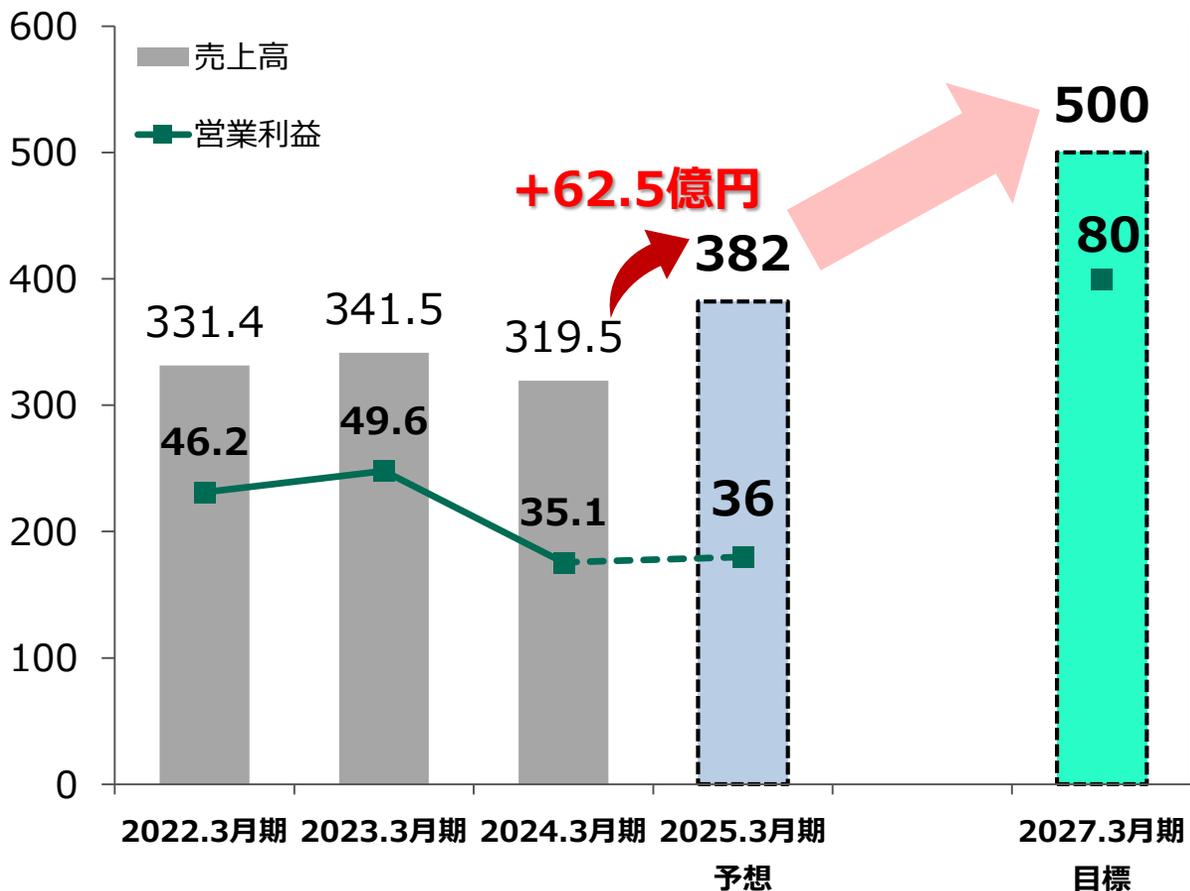
今後の先端フォトレジスト市場の見通し

- 2023年-2029年 **EUV用レジストの需要量は、年平均34%成長で、6倍に成長見込み。**
- EUV、ArF用レジストの合計需要量も**1.7倍に拡大見込み。**
- 千葉工場 第4感光材工場 能力増強の完成により、**当社キャパシティは1.8倍に拡大。**



中期経営計画「Beyond500」の進捗

業績目標と進捗



Beyond500 (2027.3月期)

売上高: 500億円

営業利益: 80億円(営業利益率16%)

- 半導体市場の継続的な成長を想定。
- 供給拡大に向けた、生産能力増強投資は2025年3月期上期にほぼ完了。
- 来期以降、収益寄与の見込み。
- 人材育成や技術戦略強化も進行中。

Beyond500期間

人材育成への取り組み

- ・ 中長期の成長に向けて、2017年に管理職を対象にジョブ型人事制度を導入。
- ・ 2024年9月5日 内閣府ジョブ型人事推進会議で率先的な導入企業に選定。

東洋合成のジョブ型人事の特徴

- 「役割」と「業務で実践する」ことを重視し、仕事を分かりやすく定義
- 役割に応じた報酬水準の引き上げと公正な処遇
- 成長分野への公募制度の拡充
- スキルマップ作成と、キャリア開発・能力開発プログラムの拡充により、リスキリング機会を提供
- 業務遂行においては、チームビルディングやワークショップなどの関係性構築や組織開発により、心に根差したマネジメントを志し、新たなチャレンジを生む文化を醸成。

管理職の役割

- 組織目標の達成50% : 部下の育成・成長を通じて目標の達成
- 部下の育成50% : 目標達成に向けた業務を通じて部下を育成



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。